

平成30年度 寺山公園子育て交流施設「いーてらす」利用状況報告書

1. 年間利用者総数 180,125 人
 前年度 人 前年度比(100) % 一人増

平成30年4月8日開館以来の延来館者数 180,125 人

年間総開館日数 302 日
 1日平均利用者数 596.4 人

2. 区分別利用状況

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
月別開館日数		20	26	26	27	26	26	26	26	24	24	24	27	302	
利用者数	0～小3	計	9,134	9,006	7,714	6,659	7,518	8,520	7,813	7,225	5,554	5,445	6,184	10,852	91,624
		1日平均	456.7	346.4	296.7	246.6	289.2	327.7	300.5	277.9	231.4	226.9	257.7	401.9	303.4
	個人利用申請者	計	120	23	0	62	98	47	58	32	32	28	13	47	560
		1日平均	6.0	0.9	0.0	2.3	3.8	1.8	2.2	1.2	1.3	1.2	0.5	1.7	1.9
	小学4年生以上	計	165	117	96	62	114	60	63	52	40	37	34	86	926
		1日平均	8.3	4.5	3.7	2.3	4.4	2.3	2.4	2.0	1.7	1.5	1.4	3.2	3.1
	保護者等	計	8,861	9,373	7,124	5,926	6,635	7,737	7,108	6,497	4,791	4,957	5,617	9,490	84,116
		1日平均	443.1	360.5	274.0	219.5	255.2	297.6	273.4	249.9	199.6	206.5	234.0	351.5	278.5
	ボランティア	計	1	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
		1日平均	0.1	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	見学	計	214	120	58	40	77	87	84	28	37	19	18	22	804
		1日平均	10.7	4.6	2.2	1.5	3.0	3.3	3.2	1.1	1.5	0.8	0.8	0.8	2.7
	団体	計	16	158	551	55	0	532	422	127	44	40	73	74	2,092
		1日平均	0.8	6.1	21.2	2.0	0.0	20.5	16.2	4.9	1.8	1.7	3.0	2.7	6.9
合計	計	18,511	18,797	15,545	12,804	14,442	16,983	15,548	13,961	10,498	10,526	11,939	20,571	180,125	
	1日平均	925.6	723.0	597.9	474.2	555.5	653.2	598.0	537.0	437.4	438.6	497.5	761.9	596.4	

新規登録世帯数 1日平均 / 55.2世帯

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
新規登録世帯数	5,637	2,196	1,409	1,015	1,137	1,085	947	831	523	457	531	901	16,669

利用者登録世帯数 (開館～2019/3/31)

登録世帯	東区	中央区	北区	秋葉区	西区	南区	西蒲区	江南区	新潟市外	県外	合計
登録世帯数	5,758	3,253	1,445	664	1,708	201	134	1,181	1,927	398	16,669
割合	34.5%	19.5%	8.7%	4.0%	10.2%	1.2%	0.8%	7.1%	11.6%	2.4%	100.0%

年間運営総括及び来期への課題

・新設の子育て支援施設であること、公園併設であることの魅力は、想像を超えていた。一年間で18万人を超える利用があった。開館以来、本当に多くの様々な方が来館し、遊びに来るのはもちろん、見に来る、感想を話しに来る…ということが続いた。運営理念に基づき、行事を決定実施していったところ、大勢の家族から楽しんでいただけたと思っている。あまりの利用の多さに、危険を感じ、入場制限をしたこともあった。怪我もあり、救急車を呼んだこともあったが、すべて大事には至らず、利用者との関係が続いている。

・今期は、乳幼児のイベントが充実していた。『あんよのまえのいないいないばあ』は、7か月から12か月の乳児を対象におこなっている90分のイベントで、当初は東区の子育て支援事業として運営されていたものが、『い〜てらす』開設と共に、委譲された。通常の乳幼児イベントは30分であることを考えるとずいぶん大掛かりな印象を持った。4月の参加者は28組だった。一年を過ぎた今は、すっかり浸透した感があり大人気イベントに成長している。毎月およそ40組もの申し込みがあり、楽しみにしている保護者も多い。ふれあい遊び・おしゃべりタイム・からだをつかった遊びを組み合わせ、職員が三人体制でおこなうことでそれぞれの個性も発揮され、好評を博している。当日遊びに来て、対象月齢を持つ保護者に声がけをして参加希望を聞くことができることもこの施設の魅力であると考えている。また毎週火曜日の『おしゃべりテラス』では、一年間通い続けてくださった母親三人が、来期はファシリテーターとして同じ子育てママの話を引き出してくれる立場になってくださった。職員が進行するよりもはるかに〈ピアカウンセリング〉が期待できるようになった。

・さらに、利用者との親しみが深くなるであろう来期は、近隣の学童クラブと連携しながら、公園を活用し、小学生や中学生とのかかわりを深めていきたい。

・指定管理受託時は、子育て交流施設の運営を中心に考えていたが、一年間運営してみて、公園と施設を一緒にした催しは、地域を巻き込めると分かった。子育て交流施設の保護者、乳幼児対象のイベントや、祖父母を含めた家族単位の催しは現状通り実施していく必要はある。加えて、前述のように公園を使った催しをやることで、利用対象年齢がなくなり、自治体との連携も取りやすくなる。今年度行った『こどもまつり』『寺山フェスタ』のような催しを地域の行事として定着させ、さらに充実したものにしていける必要があると感じている。

来期以降は、具体例として『寺山こい来いフェスタ』『盆踊り』『雪まつりを』新たに加え、地域の核として公園と子育て交流施設を有効活用をしていくことが課題になってくると考えている。

総括・自己評価

・年間で180,125人の来館があった。子育て支援施設と児童館の機能を持ちながら、公園併設であることから、地域のあらゆる年代の方からの注目を浴びていたように思う。個人利用の他、団体利用の要望も多く寄せられた。お貸しできる曜日に限りがあるため制限はあったが、5月など親子遠足のシーズンは希望が多くあった。

・一時預かりは、理由を問わず受付をおこなった。保護者が気兼ねなく休めるようにとレスパイト保育を目指した。4、5月の利用は少なかったが、施設を知ることによって利用が増えていった。保育ルームを見学して、どのような人間が保育をするのかを確認してからの利用が目立ち、当初はすぐに預けたい人が殺到するだろうと考えていたが、予想を裏切られた形になった。このことは、保護者自身が安心を担保して我が子を預けようとする姿勢の表れであり、うれしい誤算となった。その後は、徐々に希望が増えリピーターの利用も定着してきた。ある母親が「ここが保育園もやってたらいいのに」とつぶやいた言葉に、将来このい～てらすが保育園を併設するニーズをはらんでいるのではないかという予感を持った。年間で572件の保育を実施した。託児時間は、1,628時間であることから一人当たりの保育時間は平均3時間になった。理由は問わずとも、話してくださる方から、友人や夫との買い物の他、きょうだいの親子遠足や参観日、就職活動という声がまま聞かれた。今後も安心して預けていただけるように細心の配慮を心がけたい。

・利用状況としては、平日は300～800人、週末は1,000人を超えていた。このことから子育て支援としての施設の特徴をどう持つていくのかという課題に、すぐに直面した。当初のただひたすら安全な利用を提供することから、本当に少しずつ利用者のかかわりが深くなってきたように思う。平日の午前中は赤ちゃんを連れた保護者が多く、毎日11時15分のふれあいタイムに孫を連れて来館する祖父母と一緒に体操をする姿は微笑ましくも、逆にこちらが励まされるようにも感じられ、ありがたかった。午後になると、降園下校後の子どもたちがにぎやかに走ってくるようになった。毎日の顔ぶれを見て、今の時間を知るような親しきが増している現状である。しかしながら、週末は一変してレジャーランドと化し、遠方からお出かけとして自由に遊ぶ家族が殺到している。おのずと運営は利用者の状況を見て異なってくるものの、土・日・祝のイベントは数百人の人が集まるため家族単位の大きなイベントへの需要はあるという手ごたえを持った。実際に、こどもまつりや寺山フェスタの他、クリスマス・ニューイヤーコンサート・豆まき・家族対象のフィットネスなどは大盛況だった。子どもを取り巻く両親だけでなく祖父母、叔父・叔母も一緒にこのい～てらすに集ってもらうことを企画していきたい。親・祖父母は個別に役割分担としてそれぞれが子ども

もと訪れる利用は多くいただいているので、親族が『一緒に』集う場所として広く認知していただけるように努力したい。

・職員は、利用状況を見ながら保護者への的確な対応ができていると思う。平日の午前中に来館する、赤ちゃんとの関わりにまだぎこちなさの残る母親に対しての声掛けや態度などに、資格だけではない資質としての温かさを感じることができた。「トイレに行きたいという母親に『赤ちゃんを見てみましょうか』と声を掛けたら床に置こうとしたので『抱っこしていますよ』という『え、いいんですか?』と驚かれました。誰かに頼むことに慣れていないんですね」という声を耳にした。このように保護者の現状や実態は、日々の関わりの中で知るように心がけてきた。特に育児に緊張感が感じられる母親には、さりげなく一時預かりを薦め、少しでも子育てを楽しむ手伝いを全力で全職員でおこなった一年であった。い〜てらす主催の『おしゃべりテラス』に参加された方には8カ月児から無料で保育を行ったこともあった。しかしながら、中には公園への苦情対応や、職員の対応に対しての苦情をいただく残念なこともあった。職員一同一丸となって、さらに研鑽・経験を積んでいきたい。